みはらっせの

コレナンダー その7

「コレナンダー」はみはらっせエリアで発見した、読者のみなさんの「これ何だ?」に編集室がお応えしていくコーナーです。

大和(だいわ)のシャトー(斜棟?)
田んぼに佇む伝統的建造物=灰屋(はんや)ってなんや?

昔から農家の別棟として、田んぼの横に作られていた肥料づくりの作業小屋。火を使うため石や土を使った独得の構造になっている。(下徳良にて)

Q 先日、夢公園の帰り、大和町大草あたりを走っていて、石の柱にのっかった倒れそうな倉庫(?)を発見しました。これって一体、何なのですか?不思議な斜めの傾きが気になります。(みはらっせ特派員:フライト労働・32歳)

A これはわらや雑木を焼いて田畑の肥料となる灰をつくっていた作業用の小屋です。灰屋と書いて「はんや」と呼びます。三原・世羅・賀茂の田園地帯には、まだあちらこちらに灰屋が残っていますが、化学肥料の利用が進んだ現在では道具小屋になっていたり、朽ち果てているものも多数あります。それにしても倒れそうで倒れないこの不安定な石の柱が見事ですね。哀愁を感じます。自然そのものをムダなく再利用して、環境のバランスを崩さない有機的な肥料をつくる。灰屋はオーガニック肥料づくりの再生工房。みはらっせの山里に残る伝統的建造物のひとつです。

(編集室:灰屋コレクター男より)

わらを燃やした後が残っている。

こちらも斜めの灰屋(大草)。

沼田川沿いを走るJRの車窓から見た新高山城跡の野だて看板(純粋野だて)。

[特集]カンバン考現学

みはらっせのふるさと案内人

野だて看板

立体看板

両面看板

かぶりもの看板

小早川隆景居城

新高山城跡

あっ!てゆ!!

ひと昔まで、山すそや田んぼの中のあちこちによく見られた野だて看板。列車の窓からバスの窓から、旅情とともに懐かしい風景が甦ります。最近ではめっきり少なくなりましたが、今でも野だて看板はふるさとの案内人。

おいしいよ!来てごらん!見てごらん!なつかしい山河があなたに語りかけてくれることでしょう。

写真上/実際に野だて看板が設置してある現地に登ってみた。一辺が2メートルあるうか?近くで見るととても迫力がある。
写真下/野だて看板のウラ面は風が吹いてもビクともしない補強が。向うに見えるのが高山城。とても眺めがいい。